

報告書

経営学部 加藤志津子

チホーツカヤ先生は、10日間の滞在中に、講義1回、フィールド・リサーチ、ホスト教員との研究打合せ、他の在京研究者との研究交流を行った。

講義は、経営学部設置科目である比較経営論（ロシア・東欧）の授業時間に行われ、主として経営学部3－4年生が受講した。表題は”Modern Russia: Society and Business”であり、英語で行われた。内容は、20年間のプーチン政権下において、社会がどのように変化し、それに応じてビジネスがどのように変化したかを示すものであった。その論点はおよそ次のように多岐にわたった。

- ・ プーチン長期政権
- ・ ウクライナ危機以後の輸入の減少
- ・ 石油価格の上昇・下落に大きく影響を受ける経済
- ・ 航空機産業、自動車産業の発展
- ・ 中小企業の発展
- ・ 中産階級の人口と所得
- ・ 企業所得と社会的所得移転
- ・ 貧困問題
- ・ 地域間経済格差
- ・ プーチン大統領の支持率の推移

日本ではあまり報道されていないロシアの社会とビジネスの重要な諸側面についての理解を深める内容であった。

チホーツカヤ先生は、「日本のコンビニの実態」という研究テーマをもってこられた。図書館での資料収集とともに、実際にコンビニでのフィールド・リサーチも行った。

チホーツカヤ先生のロシア帰国後、チホーツカヤ先生、モスクワ大学地理学部院生ならびにホスト教員で「コンビニの日ロ比較」についての共同論文を執筆する予定である。

10日間という短期間であったが、有意義な教育・研究交流の機会となった。